

食品中の放射性物質に関わる行政の調査結果及び関連情報
(12月12日～12月18日の情報)

1. 行政による放射性物質検査

福島第一原発事故が発生して以降、行政による検査が継続的におこなわれています。12月12日から12月18日までに8456件の検査がおこなわれました。基準を超えたものはありませんでした(厚生労働省のホームページから報告されている放射性物質検査の結果の概略から)。以下特徴についてまとめています。

2. 検査結果について

(1)検査結果の概要

表1. 検査結果の抜粋(12月12日～12月18日に検査された検査結果)です。

※検査を全国の都道府県で実施されていますが、ここで公表するのは福島県に隣接する県、もしくは、その週に基準を超えたものが発表された都道府県とします。

	都道府県名	検査数	基準超 合計	今週基準を 超えたもの		都道府県名	検査数	基準超 合憲	今週基準を 超えたもの
福島 県	農産物	171	0	—	栃 木 県	農産物	93	0	—
	畜産物	443	0	—		畜産物	724	0	—
	水産物	186	0	—		水産物		0	—
	牛乳乳児用食品	9	0	—		牛乳乳児用食品	10	0	—
	野生鳥獣肉	0	0	—		野生鳥獣肉	0	0	—
	飲料水、その他	71	0	—		飲料水、その他	0	0	—
宮 城 県	農産物	88	0	—	群 馬 県	農産物	24	0	—
	畜産物	215	0	—		畜産物	862	0	—
	水産物	61	0	—		水産物	0	0	—
	牛乳乳児用食品	5	0	—		牛乳乳児用食品	2	0	—
	野生鳥獣肉	8	0	—		野生鳥獣肉	0	0	—
	飲料水、その他	0	0	—		飲料水、その他	6	0	—
茨 城 県	農産物	54	0	—	千 葉 県	農産物	55	0	—
	畜産物	769	0	—		畜産物	70	0	—
	水産物	22	0	—		水産物	31	0	—
	牛乳乳児用食品	2	0	—		牛乳乳児用食品	3	0	—
	野生鳥獣肉	2	0	—		野生鳥獣肉	40	0	—
	飲料水、その他	1	0	—		飲料水、その他	0	0	—

表2. 福島県で採取された沿岸魚の検査結果の傾向(2013年3月26日の検査結果とここ最近の検査結果の比較)

検査結果判明日	検出限界以下となった割合	基準は超えていないが、何らかの 数値が検出された割合	基準を超えた割合
2013年3月26日	52.6%	41.4%	5.9%
2016年 7月 3日	96.7%	3.3%	0.0%
2016年 7月10日	96.9%	3.1%	0.0%
2016年 7月17日	97.6%	2.4%	0.0%
2016年 7月24日	96.5%	3.5%	0.0%
2016年 7月31日	95.6%	4.4%	0.0%
2016年 8月 7日	96.6%	3.4%	0.0%
2016年 8月14日	95.5%	4.5%	0.0%
2016年 8月21日	95.6%	4.4%	0.0%
2016年 8月28日	95.8%	4.2%	0.0%
2016年 9月 5日	97.0%	3.0%	0.0%
2016年 9月12日	93.4%	6.5%	0.0%

2016年 9月19日	96.8%	3.2%	0.0%
2016年 9月26日	98.8%	1.2%	0.0%
2016年10月 2日	97.0%	3.0%	0.0%
2016年10月 9日	96.5%	3.5%	0.0%
2016年10月16日	97.0%	3.0%	0.0%
2016年10月23日	95.3%	4.7%	0.0%
2016年10月30日	94.9%	5.1%	0.0%
2016年11月 6日	98.1%	1.9%	0.0%
2016年11月13日	98.6%	1.4%	0.0%
2016年11月20日	96.3%	3.7%	0.0%
2016年11月27日	94.1%	5.9%	0.0%
2016年12月 4日	100%	0.0%	0.0%
2016年12月11日	93.0%	7.0%	0.0%
2016年12月18日	94.7%	5.3%	0.0%
2015年11月平均	(93.8%)	(6.2%)	(0.0%)

基準を超えた沿岸魚はみつかりませんでした。これで87週連続、基準を超えた魚介類が見つかっていません。検出限界以下ではありますが、わずかに放射性セシウムが検出された割合は94%台となりました。先週よりは1ポイントほど改善されています。何らかの数値が検出されている魚種と地域です。①いわき市(コモンカスベ)②富岡町(キツネメバル、シロメバル)③檜葉町(キツネメバル)④広野町(ヒガンフグ、マゴチ)でした。今後も監視を継続します。

(2)検査について基準を超えたものについて

基準を超えた食品の報告はありませんでした。

(3)京都の空間線量(12月12日～12月18日)

京都市の空間線量は(16.9メートル地点)、0.038～0.042 マイクロシーベルト/1時間、1メートルの高さの推計値は0.045～0.050 マイクロシーベルト/1時間となっています。福島市の空間線量は(2.5メートル地点)は0.12～0.13 マイクロシーベルト/1時間(1メートル地点は0.15～0.16 マイクロシーベルト/1時間)となっており、原発事故以降、最低値になっています。2012年の同時期が0.8 マイクロシーベルト/1時間となっており、今はこの時の

5分の1くらいになっています。過去の平均は0.038～0.046 マイクロシーベルト/1時間(2.5メートル地点)となっておりまだまだ高い空間線量となっています。ただ、岐阜県や愛媛県といった日本でも放射線量の高い地域と比較した場合、倍くらいの値となっています。

(4)京都府で収穫、捕獲した農水産物の結果

今週、報告はありませんでした。

3. 関連情報

(1)福島県の大玉あんぼ柿、6シーズンぶり出荷再開(産経新聞より)

福島県伊達市で11日、特産の干し柿「あんぼ柿」の大玉を出荷する作業が始まった。東京電力福島第1原発事故の影響で、これまでは小玉しか出荷できず、6シーズンぶりの再開。事故前は、化粧箱に詰めた贈答品として県内外の人に親しまれていただけに、関係者は復活を喜んだ。

あんぼ柿は、とろりとした果肉と和菓子のように鮮やかなオレンジ色が特徴。伊達市では原発事故で製造を自粛した後、平成25年に一部地域で再開し、出荷できる地域や生産量は年々拡大している。

ただ昨年までは、放射性物質の検査場に、1個約100グラムの大玉を計測できる機器がなく、約50グラムの小さい柿を数個まとめたトレー入りしか出荷できなかった。今年は新たな機器が導入され、大玉の出荷が可能になった。

以上